

平成30年度11月補正予算の主な事業

# 参 考 資 料

徳 島 県

# 目 次

	頁
<b>1 安全・安心対策の推進</b>	
(1) 県民の安全・安心を確保する「豪雨・台風災害対策」の推進	1
(2) 「ゼロ県債」を活用した県土強靱化の推進	2
<b>2 経済・雇用対策の推進</b>	
(3) 地方大学・地域産業創出事業	3
<b>3 大胆素敵とくしまの実現</b>	
(4) ㊦ 県指定有形文化財「奥村家住宅」保存修理事業	4
(5) ㊦ データに基づく政策立案（EBPM）推進事業	5

# 県民の安全・安心を確保する「豪雨・台風災害対策」の推進

「平成30年7月豪雨」や「台風」による農林水産関係被害からの「早期復旧・復興」対策

9月補正による「緊急的・機動的な対応」に加え、「国補正予算」に呼応し、県民の「安全・安心」を確実にする「復旧・復興対策」を加速

## 林地の保全対策

補正予算額	1,142,900千円
治山事業費	963,500千円
林野地すべり防止事業費	179,400千円

### 【治山事業】



### 土石流・流木対策



H30当初予算+9月補正県単公共预算に加え  
「被害拡大防止対策」をさらに加速！

7月豪雨等により  
県下各地で大規模な  
林地被害が発生

既決  
予算  
災害復旧費・災害関連費等  
による迅速な復旧対策

さらに  
H31当初予算に「先行」し  
「国補正予算」を  
最大限活用した  
被害拡大防止対策を実施

### 【林野地すべり防止事業】



## 漁港施設の復旧対策

【債務負担行為】 600,000千円

### 【漁港施設災害復旧事業】

台風第21号により  
漁港施設で被害が発生



災害復旧費による  
迅速な復旧対策



債務負担行為を活用した  
円滑な復旧対策を実施

効果的な「復旧・復興対策」を加速し、県民の安全・安心を「確保」

担当：生産基盤課、森林整備課

# 「ゼロ県債」を活用した県土強靱化の推進

## 概要

【平成31年度債務負担行為設定額 1,000,000千円】

- 県土強靱化に資するインフラ整備の推進により「事業効果の早期発現」
- メンテナンスに拡大し、地域住民の「安全・安心の確保」
- 施工時期の平準化により「働き方改革の実現」

## 導入効果

### 【インフラ整備の推進】

津波避難路の  
早期供用



バイパス整備



自然災害を  
迎え撃つ

地すべり対策

大雨洪水時に  
備える



床上浸水対策

### 事業効果の早期発現

「切れ目なく、効率的な  
工事等の実施」により、  
事業効果が早期に発現

### 【メンテナンスに拡大】

出水期までに  
早期完成



排水機場修繕

### 安全・安心の確保

機能を十分発揮できるよう  
継続的な「メンテナンス」により、  
地域住民の安全・安心の確保

### 【施工時期の平準化】

#### 建設現場の生産性向上

- ・円滑かつ効率的な施工

#### 就労環境の改善・担い手確保

- ・週休2日の確保

#### 企業経営の健全化

- ・端境期の工事量確保

### 働き方改革の実現

「生産性の向上」や  
「就労環境の改善」等により、  
働き方改革の実現

# 地方大学・地域産業創生事業

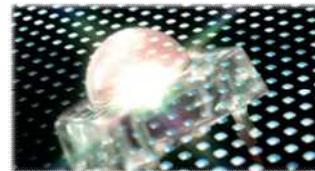
【平成30年度11月補正予算額 624,000千円】

## 国交付金の交付対象事業（第1弾）として採択！！ 【全国で7件】

### 事業概要

- ▶ 地方大学・産業創生法に基づく国の「地方大学・地域産業創生交付金」を活用（5年間）
- ▶ 県として、徳島大学をはじめとする高等教育機関において「光応用専門人材の育成」を支援
- ▶ 県、徳島大学、事業者等が連携し取り組む、「光関連産業の振興」を支援

★ 次世代LEDを創出・社会実装！ ★



【徳島の中核産業である光(LED)産業】

### 光応用専門人材の育成

#### ①最先端研究拠点「ポストLEDフォトンクス研究所」設置

- ▶ **次世代LED（ポストLED）**に関する光源開発・応用研究
- ▶ 光科学に関する**トップレベル研究者**を招へいし、最先端研究を実施

- 深紫外（各種殺菌や医療応用等）
- テラヘルツ（非破壊検査への応用等）
- 赤外光コム（物質計測・分析への応用等）

【次世代LEDの種類と応用例】

#### ②分野横断型大学院「創成科学研究科」創設

- ▶ **他分野学生も光科学の選択が可能**となり、様々な分野で光を活用できる人材を育成



【光応用専門人材の育成】



企業が求める即戦力人材

「しごと」が「ひと」を呼び

「ひと」が「しごと」を呼び込む

好循環の確立！！

産業活性化による雇用創出

#### ①産学官による社会実装支援

- ▶ 産学官共同研究の促進を図るため、研究機器を共同利用する**「地域協働技術センター(仮称)」**を設置
- ▶ 次世代LEDを活用した**製品開発**
  - ▶ 新たな光応用製品・技術を市場へ発信、販路拡大

### 光関連産業の振興



【機器の共同利用】



【特殊光により患部を特定】

#### ②光応用研究の促進

- ▶ 特殊光を用いた**新しい内視鏡診断と光治療法の開発**

★ 次世代LED応用製品の開発！ ★

★ 魅力あふれる大学づくりで徳島に若者を呼び込む！ ★

## 次世代の光により若者の「とくしま回帰」を具現化

# 新 県指定有形文化財「奥村家住宅」保存修理事業

【平成30年度11月補正予算額 13,700千円】

## 県指定有形文化財「奥村家住宅」【管理団体：藍住町】



- ・主屋を中心に、本瓦葺屋根、漆喰塗壁の豪壮な建築群で取り囲む屋敷構え
- ・「阿波藍」最盛期（江戸後期）の藍師、藍商の屋敷（藍屋敷）として、その建築群がほぼ完全にそろっている。
- ・現在、藍の歴史館「藍の館」が併設され、阿波藍を知る観光施設、体験施設として活用されている。

貴重な文化遺産であると同時に、  
「阿波藍」＝「ジャパンプルー」PRの重要拠点

### 現状の課題

台風被害等により、「東藍寝床」屋根が破損



奥村家住宅東藍寝床  
※赤枠線部  
……屋根破損部分

東藍寝床は、展示・  
藍染め体験コー  
ナーとして活用され  
ており、公開活用の  
重要な施設



製藍道具の展示



4

藍染体験の様子

### 保存修理の実施

藍住町  
が実施

県が  
支援

「東藍寝床」屋根修理

- ・来場者の安全安心の確保
- ・文化財としての魅力向上

担当：教育文化課

# 新 データに基づく政策立案(EBPM)推進事業

【平成30年度11月補正予算額 6,700千円】

**「データ」の重要性の高まり**

「世界最先端IT国家創造宣言・官民データ活用推進基本計画」(H29.5月)  
 「EBPMを推進するための人材の確保・育成等に関する方針」(H30.4月)  
 「EBPM推進委員会」を設置し、政府横断的な取組を開始

↓

限られた資源を有効に活用し、信頼ある行政を展開するためには、現状・政策課題の的確な把握及びその効果の検証が必要

**IoT・ビッグデータ等の進展**

**データ流通量の増大**  
 ネットワークの高度化,センサー等IoT機器の進展等により,活用できるデータの量,範囲,速度が増大

**データ分析技術の向上**  
 コンピュータのデータ処理・分析技術の発展により分析精度・作業効率等が向上

⇒ビッグデータを活用し,より高度な分析が可能に!!

**公的統計のマイクロデータ利用**

統計データ利活用センター等のオンサイト施設において,統計マイクロデータ(調査票情報)の利用が可能

統計データ利活用センター H30.4月開設(和歌山市)

従来の統計データ × 統計マイクロデータ = 新たな発見



EBPM: Evidence-Based Policy Making  
 (証拠に基づく政策立案)

総務省「統計データ利活用推進事業」を活用

【オンサイト施設】  
 入退管理や監視カメラなどにより,セキュリティを確保した上で,統計マイクロデータ(集計前のデータ)を利用できる施設

**産学官による共同研究体制の構築**  
 大学,民間事業者等と連携した**データ分析手法等の検討**

**EBPM研究会(仮称)**

- 大学,民間事業者等と連携し,産学官による「データ」を活用した共同研究を行う「**EBPM研究会(仮称)**」を構築
- EBPMノウハウの蓄積
- データ分析手法の確立
- データ活用人材の育成

**EBPM研究会(仮称)**の構成: 県, 大学, 民間

**EBPMモデル構築に関する分析研究**  
 テーマ: 人口移動

課題定義・仮説立案  
 ↓  
 分析手法等の検討  
 ↓  
 仮説の検証

本県に係る「**人口移動**」をテーマに, EBPMのモデル構築に関する分析研究を実施

- 転入・転出者の属性
- 相関の強いデータ 等

オンサイト施設の統計マイクロデータを積極活用



EBPMのモデル分析研究による**各種施策へのデータ活用の促進**